

大阪 需給逼迫と東高西低支えに堅調ムード

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況はなおも強含み。地区価格が輸出相場をリードし、上伸余地に不透明感はあるものの、東高西低の展開に加え、電炉入荷に改善の兆しも見られないだけに、堅調気配を保ったまま中旬へ向かいそうだ。同地区電炉のH2実勢値は3万2,000~3万3,000円、新断バラ同3万4,000~3万5,000円(一部上値3万5,500円)、鋼グライ粉バラ同2万9,500~3万円(同3万500円)見当で推移。

東京製鉄の値上げを受け、アジア向け輸出商談も多少は押し上げられつつも、地区価格に比べれば見劣りする状況にあり、依然として力強さを欠いている。また、ここにきて電炉筋によっては海上便で入荷促進を

図るべく、新規成約の動きも活発に聞かれ出したことで、「海上便も流入してくれば、足元のようなタイト化は自然と収まってくるはず。それほど上伸していくような展開とは思いつらい」(商社)と慎重な声もある。

だが、今月の生産水準も高い反面、電炉筋の多くは水面下含めた対応を行いつつも、今週は先週ほど値上げの効果が入荷に表われてこないようだ。ここまでの相次ぐ裏値対応や8日から東高西低がより顕著な動きとなったことが、市中の先高見通しを強めさせており、「中旬に共同輸出船積みも控え、引きつづき需給タイト感には保たれる以上、新たに何らかの対応を打ち出してくるのでは」(ヤード業者筋)と見る向きが多い。

山原商会(宇部市)、工場見学会を開催

(山口) 山原商会(本社=山口県宇部市、山原一紀社長)は10月24日に工場見学会を開催した。見学会には宇部観光コンベンション協会の紹介で19名が参加。

事務所の屋上でヤード内での金属スクラップのリサイクル工程を見学。その後は会議室に移動し、営業方針や環境保全活動について説明会が行われた。山原社長は「参加者から金属スクラップのイメージが変わったと仰って頂いた。見学会を通じて、貴重な資源である金属スクラップを身近に感じて貰えればと思う。その為にはこれからも安全な職場環境作りを心掛け、金属リサイクル業界のイメージアップに努めていく」と

話す。

同社は金属スクラップの月間取扱数量約5,000^ト(代納含む)を誇る宇部市のヤードディーラー。平成25年に油圧シャワーの更新や本社ヤードのレイアウトをリニューアルし、作業効率と加工処理を飛躍的にアップさせた。また山口県のサッカーチームのスポンサーに加盟するなど地元の活性化にも寄与している。



説明をする山原社長

第48回 N S オープン西部地区大会 坂本耕作氏(資源開発)が優勝

(大阪) ナベショー(本社=大阪市中央区、渡邊泰博会長)が主催する第48回 N S オープン西部地区大会が10月28日、西宮高原ゴルフ倶楽部(兵庫県西宮市)で開催され、個人戦では坂本耕作氏(資源開発)が優勝した。当日の参加者は62名(16組)。

主な成績は次の通り(敬称略)。▶個人戦優勝=坂本耕作(資源開発)▶準優勝=山本裕司(アイ・エッチ・エム・トレード)▶3位=千葉満春(千葉金属)▶ベスト

グロ=南信敏(南商店)▶団体戦優勝=春田正一(春田商店)、森脇順三(シマブンコーポレーション)、坂本耕作(資源開発)、片倉義久(ナベショー)



0120-728-243
(ナニワの富士山)

日々のつぶやき Vol.19 2017.11.10

■今の不安が逃避を生み、日々の妥協が袋小路を生む
▶「財務再建をやるなら今だ」とならない理由は2つ。現状に満足なら、痛みを伴う改革はやる気が起きない、という人間の本性だろう。(中略)将来不安こそ、人々が消費や投資を抑え、回復が長持ちしない理由ではないか(中略)弱い景気を生み出している一因は将来の財務破綻への恐怖なのだ(10月26日付大機小機より)。
▶今に「選択肢がある」という恵みを感じすべきです。小さな痛み(損害)を避けるために妥協・先送りすると、時間経過とともに選択肢が狭まります。今を何とか生き延びる一という切羽詰った状況に陥れば、突きつけられる「最悪の選択肢」から選択せざるを得ません。

N.S GROUP